

共創テーマ採択の理由: 電気設備に強みを持つEW社として、次世代の配電設備の検討は不可欠である。その1つとして、海外で先行する光無線給電技術の活用により、安全・便利な新しい配電の実現を加速化したい。

**PHION社の強み**

三拍子揃って効果的に提供できる技術

距離      電力      安全性

×

**パナソニック EW社の強み**

送電・受電製品を保有      規格標準化の力強い歴史  
(グループ内にも規格制定団体に参画)

例 送電側: 照明      受電側: ドアホン      速結端子      引掛シーリング

共創のポイント: 世界的にも比較的新しい「光無線給電」の社会実装に向け、プログラム内で技術・導入計画の立案

- ・国内初となる安全認証※取得における課題、実施計画(※日本産業規格(JIS))
- ・導入初期・中長期でユースケース展開議論(単に有線から無線への代替でなく、無線特有の価値、データ活用等)

プログラム活動の様子(テーマ採択から約4か月でデモデイまで到達)

	11月	12月	1月	2月	3月
採択	活動計画 詳細整合				
		技術理解 (オンラインデモ)	現地訪問 2日間	ユースケース 議論	
				デモデイ準備	デモ デイ
	← オンライン打合せ 11回 →				



共創活動後の計画: ペインの解消から付加価値創出に注力

Step	短期 素早い実証	中期 幅広い領域への展開と標準化確立	長期 プラットフォーム展開
Value Added		規格標準化 「当たり前」の醸造	
Pain	工場 倉庫	建設現場 保守・メンテ	オフィス 商業施設 住宅向け
目的	人手不足の解消	広く社会実装による認知向上	データ活用サービス展開

- ・社会課題にも挙げられている人手不足解消の手段として活用し認知度を向上を図る
- ・その後、広くユースケースを展開することにより幅広い実装、無線給電市場を醸造により、規格標準化
- ・さらに通信との融合により、データ活用サービスも狙う

共創活動後のパナソニックとの関係

- ①導入初期の実証のため
  - ・パナソニック側にて実証のための社内外ヒアリング
  - ・PHION側にてデモ機の製作検討
- ②中長期に向けて
  - ・双方で技術課題(デバイス内蔵等)、ユースケース抽出

PHION社のコメント

EW社は、全社一体となって共創にコミットしてくれました。これは今後、スタートアップと大企業のコラボレーションが実行されるべき手本になると思います。今回の共創は、来るべきエキサイティングな未来の始まりと考えています。